

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	現在のユニット目標は職員目線で作成されているため、利用者の希望要望が取り込まれていない。また、どんなユニットを利用者が望んでいるか確認する必要がある。	利用者目線で住みやすい環境を作るため、利用者や家族の言葉がきちんと反映できるような目標にする。	利用者会議を使い、要望を確認するとともに、家族アンケートの結果を見直し、そこから考えられる内容をユニット目標へ取り入れる。	3 ヶ月
2	2	見守り隊が交通安全に対する取り組みであることが地域に根ざしたものとなるように、見守り隊のアピールや更なる充実を図る必要がある。	見守り隊の活動を通して、当事業所への興味を持っていただけるようにアピールをする。	アドバイスいただいた交通安全グッズの準備を行い、活動が見えやすい状況を作る。加えて、応援して貰える機会を作ることで利用者のやる気や喜び、地域との交流につなげていけるように努める。	12 ヶ月
3	6	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為に当たるような行動は行っていないが、十分理解できているかといえば、そこまでは到達できていない現状がある。	身体拘束についての弊害をすべての職員が正しく理解し、正しいケアの実践ができる。	当たり前に行っている事が、身体拘束に準ずる行為であるったりする場合があるため、各棟の申し送りノートや気付きノートを活用し、情報を共有しながら対応していく。同時に、自施設内研修に身体拘束及び権利擁護を取り入れる。	12 ヶ月
4	35	防災訓練の回数は増えたが、実際、そういった現場に遭遇した際に確実に対応できるとまでは言い切れない。更に、防災に対しての意識の充実を図っていく必要がある。	トラロープ訓練、トリアージの見極め方など、利用者の誘導だけにとらわれず、災害状況を想定した訓練を行う。	これまで以上に災害状況を想定した訓練を行う。また、トラロープを持ちながら階段昇降や椅子の間を蛇行して歩いたり、シートを使ったの移送訓練などをレクリエーションの一環として取り入れる。	12 ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。